

# 日本音楽集団第105回定期演奏会

～青少年のための日本音楽～

1988年9月28日(水)

午後7時開演

芝 a b c 会館ホール

主催：日本音楽集団

現代邦楽協議会

後援：邦楽教育を推進する会

## プログラム

司会 = 定岡小百合

### < 第 I 部 >

#### 1. オープニングは軽やかに

「子供のための組曲」から第一章

長沢勝俊 作曲

子供のための組曲は、1964年に作曲されその年開かれた日本音楽集団第1回定期演奏会で初演されました。

以来、多くの人々に愛され続けている人気の高い作品です。

この第一章には「軽やかにのびのびと」という指示がありますが、まさに生き生きとしたリズムに溢れており、2分たらずのこの楽章は邦楽合奏の魅力への扉と言えましょう。

[尺八] I・藤崎重康

II・米澤 浩

III・水川寿也

[三味線] 野口美恵子

[琵琶] 半田淳子

[ 箏 ] I・花房はるえ

II・佐藤由香里

[十七絃] 熊沢栄利子

[打楽器] 高橋明邦

望月太喜之丞

## 2. 楽しいアレンジ

ロンドン橋	宮下博次 編曲
グリーンズリーヴス	三木 稔 編曲
待ちぼうけ	宮下博次 編曲
浜辺のうた	宮下博次 編曲
八木節	三木 稔 編曲

例えば、こども達に初めて邦楽器の演奏を聴かせる時、こども達の心を開く扉として、よく知られた短い曲をいくつか演奏することがあります。

しかし、性能が向上しているとはいえ、邦楽器で演奏するにはなじまない曲も多く、こうしたプログラムで邦楽器が魅力を放つためには、注意深い選曲と素敵な編曲が欠かせないことは言うまでもありません。

日本音楽集団の学校公演を聴いたある高校生は、最初「箏や尺八でグリーンズリーヴスをやるなんて狂気の沙汰としか思えなかった」そうですが、「実際に聴いた時はしびれた」と感想文に書いてくれました。

[ 笛 ]	藤崎重康	[ 箏 ]	I・花房はるえ
[ 尺 八 ]	I・米澤 浩		II・佐藤由香里
	II・水川寿也	[ 十七絃 ]	熊沢栄利子
[ 三味線 ]	野口美恵子	[ 打楽器 ]	高橋明邦
[ 琵琶 ]	半田淳子		望月太喜之丞

## 3. 古典の世界（各曲抜粋、楽器紹介も兼ねて）

鹿の遠音	尺八本曲		
[ 尺 八 ]	宮田耕八朗、素川欣也		
六段の調	箏曲・八橋検校 作曲		
[ 箏 ]	花房はるえ		
扇の的	平家物語から・半田淳子 作曲		
[ 琵琶 ]	半田淳子		
幕間三重	歌舞伎音楽		
[ 三味線 ]	野口美恵子		
新八千代獅子	日本音楽集団 編曲		
[ 笛 ]	竹井 誠	[ 三味線 ]	野口美恵子
[ 尺 八 ]	素川欣也	[ 箏 ]	花房はるえ
	水川寿也		佐藤由香里
[ 胡 弓 ]	田中悠美子	[ 十七絃 ]	熊沢栄利子



## 5.大合奏の魅力………きらめく邦楽器群

「ディヴェルティメント」から第一楽章 佐藤敏直 作曲

「四季」ダンス・コンセルタントⅠから<水巡る><秋、そして>

三木 稔 作曲

組曲「人形風土記」から<ニポポ>と「子供のための組曲」から第五章

長沢勝俊 作曲

日本音楽集団の魅力のひとつに大編成の合奏があります。

伝統音楽の世界では、多種の楽器での合奏は雅楽のほかにはありませんでした。

日本の楽器や音楽は、それぞれがそれぞれの畑でそれぞれ誇らしく育ってきましたが、そのそれぞれを大きなアンサンブルの田畑に植えかえようというのが、日本音楽集団の結成の動機でもありました。

[ 笛 ] 西川浩平

[尺 八] I・宮田耕八朗

水川寿也

II・竹井 誠

素川欣也

[三味線] 野口美恵子

田中悠美子

[琵琶] 田原順子

[ 箏 ] I・内藤洋子

佐藤由香里

II・熊沢栄利子

高橋はるな

[十七絃] 宮越圭子

山田明美

[打楽器] 尾崎太一

望月太喜之丞

[指 揮] 稲田 康